

GOLDEN INTERVIEW

コメディアン / 茨城ゴールデンゴールズ監督

萩本欽一さん

「いつでも人が楽しく動けるかどうか、
それがいちばんだよね」



はぎもと・きんいち

1941年東京生まれ。高校を卒業後、浅草の東洋劇場に入る。66年、坂上二郎と「コント55号」を結成し、爆発的人气を集める。71年、コント55号の活動を休止した後、「欽ちゃんのどこまでやるの」「欽ちゃんのドンとやってみよう」「欽ドン・良い子悪い子普通の子」など多くの人気テレビ番組を生み出した。これらの番組から人気タレントを輩出し、多くの若手の育ての親としても人望が厚い。「欽ちゃん劇団」の旗揚げ、映画「手」「俺は眠たかった」の自作自演、「欽ちゃんのシネマジック」プロデュース、長野五輪閉会式の司会など幅広く活躍。2005年1月に社会人硬式野球のクラブチーム「茨城ゴールデンゴールズ」を発足。3月に日本野球連盟に加盟した。

萩本欽一さんが監督を務める社会人野球クラブチーム「茨城ゴールデンゴールズ」(茨城県稲敷市)が、注目を集めている。これまでのアマチュア野球の常識を覆し、マイクパフォーマンスで試合を盛り上げ、お客さんを楽しませる。

鹿取義隆さん(元巨人・西武)がヘッドコーチを務めるなど、プロのコーチ陣が指導しているだけに、実力面でも見応えがある。今年5月の全日本クラブ選手権北関東大会代表決定戦で快勝し、全国大会(9月)の出場も決めた。社

会人野球の頂点を競う都市対抗野球にも挑戦。県大会3位決定戦で敗退したものの、企業チームと互角に戦い、実力を示した。

集客力には目をみはるものがある。各地から対戦要請も相次ぎ、スポンサーや地元テレビ局の放映もつき、地方球場が活気づいている。

新しい舞台でチャレンジを続ける欽ちゃんに、個性や才能を活かすという視点で、ユニークな“後進育成術”などお話を伺った。

(聞き手: 松永美佐寿)

写真提供：茨城ゴールデンゴールズ



野球界に「革命」をもたらした“欽ちゃん球団”

野球がおもしろそうだから 今までにない監督でいってみよう

社会人球団を設立しようと思った理由は何でしょうか？

「一人の野球ファンとして、もっと楽しい野球が見たいと思ったのね。だって昔と全然変わってないでしょう。

例えば、試合が始まる前の1時間、芸能界なら練習は見せられないけど、野球の練習なら見せようと思えばショーとして見せられる。そうしたらおもしろいことたくさんあるなと。口で言っているより、ベンチに入ったほうがいいと思って、日本野球連盟に行っちゃった。

野球人が野球辞めると芸能界に来るけど、芸能界から野球界には一人も行ってないでしょ。扉閉めてます？と聞いたら閉めてませんで言うからさ。監督やりたいと言ったら、おもしろそうですね。」

練習の指揮は元ヤクルト、オリックスで活躍した副島孔太さん（コーチ兼選手）、試合の采配は元巨人、西武の鹿取義隆さん（ヘッドコーチ）がとっています。では欽ちゃんは？

「僕は演出家。今までにない監督をやろうと思っているの。

笑いの世界で生きているだけでは、笑いなるものが大したことないという気がする。つまり、笑いで覚えた極意が、例えば銀行経営にそのまま使えたら本当にいい笑いなんじゃない。笑いの術が、野球で生きたら自分の笑いにもっと自信や誇りが持てるという思いがあったわけ。」

個性のある選手を育てれば メジャーだって恐くない

どういう野球をやりたいと考えているのでしょうか？

「僕のやりたい野球というのは、個性のある選手



真剣なまなざしで、ときに「笑い」を入れて語る欽ちゃん

を育てること。優れた選手はみんなメジャーに行ってしまうでしょう。個性のある選手を育てれば日本の野球も楽しくなるし、メジャーを気にすることも無い。言ってみれば個性の魅力で野球を見せるということかな。

キャンプで一番人気があったのは37歳の選手なんです。マイクで、打てないと今日引退かもしれませんが紹介すると、お客さん、ものすごく注目します。そこでカチーンとヒットを打った。その選手が3塁まで来たら『林、辞めるなー』という声が掛かって、そこで初めてその選手の個性が出たわけです。お客さんが認めることで、37歳で、次辞めるかもしれない崖っぷちという個性です。その選手の一打一打、けっこう見ていてスリルありますよ。」

選手全員に向かって話をするのではないそうですが？

「よく社長さんが新入社員集めて、皆さん頑張ってくださいって言うでしょう。100人に言っても100人とも頑張らないですよ。それよりも、たった一人に、お前いい顔しているね、頑張りそうだねと言ったら、そいつは頑張りますよ。任されたと思って。

君だけが頼りだからと一人に頼むと、そいつがまた一人に言うわけ。それで結局みんなに広がっていく。時々横着なヤツがいてね、5～6人に、そういうわけだから頑張ると言っていると、仕事は失敗するんです。

だから、野球のチームを集めたときも皆さんようこそとか言いませんよ。誰か一人を探す。誰に言うか見極めるんです。それは運ですよ。」

運がなかったことにして 次の仕事を楽しもう

失敗するか成功するか、運で決まる？

「運というのは二通りあってね。自分で使う運と人の運に乗る場合と。自分で使う運は、もう決まっているのね。一人100gとか。それを1gずつ細かく使う人もいれば、一発で使う人もいる。それから人の運に乗っていくやつとね。

なぜ、僕が運と言うか。誰かを問い詰めたって楽しくないからね。例えば、番組がハズれたとき、企画書が悪かったのか何が悪かったのかという話になる。でもね、運がなかったということだと、運は次回に回そうということになるでしょう。有名にならなかったのは運がなかったからだねと言えば、またチャンスがあるかもしれない。それを才能がなかったと言ったら、立ち直れないよ。

僕だって、100%成功することはないんですよ。だから、テレビの視聴率が上がらないときも、誰だ運を使っているやつは？と聞くわけ。僕の勘では新築の高級マンションを買って住んでいるヤツがいるな、手を挙げてみろって。それでプロデューサーが手挙げたりして。それだ、そのマンションがこけた理由だって。

誰もショックじゃないでしょう。それでプロデューサーは分かったよと言ってね、マンションの鍵を川に捨てたって言うんですよ。本当に捨てたかどうかは、誰も確かめてないんだけど（笑）。

それでも、不思議なことに鍵を捨ててから視聴率が上がったりする。そうなると番組が当たったというのは、誰の才能でもなくて、誰も自慢できない。自慢できるのはプロデューサー、俺がマンションの鍵を捨てたからだって。

こうすると、失敗したときもつらくないし、仕事がいつも楽しいでしょう。才能云々という話が出てこないだから。

いつでも人が楽しく動けるかどうかなんです。それが次につながって、逆転勝ちしたりする。失敗があって、大きな成功を呼ぶんです。」

落球したときの言葉ひとつで 野球は変わっていく

失敗したときに才能をつぶさないでいかに活かすかということですね。

「野球で落球したら、お客さんが『あー』と言うでしょう。そうしたらベンチも『あー』と言っているの。スタンドとベンチが同じ声を出しているのはおかしいから、ぼくだけ、『ラッキー、よしよしい落球だ』と言ったわけ。どうしていい落球なんだか説明できないんだけどね（笑）

でもね、見ているお客さんと見せているほうが同じセリフを言っているのはおかしい。それはプロじゃない。お客さんと違うことを言うことから始めないと。こういうことに、何の疑問も感じていないことがいけない。だから、ラッキーと言ったわけ。改革だと思って。でも、ベンチのなかから冷たい視線がきたりしてね。

それで落球したヤツがバッテリーボックスに入ろうとしていたから、声を掛けたの。あそこで落として、ヒットを打つほうに運を使うんだよね。これからヒット打ちにいくんだらうって。そうしたらハイッと行って、本当にヒットを打った。これが勝負なんです。失敗するか成功するかは五分五分。でもね、こ

写真提供：茨城ゴールデンゴールズ



マイクパフォーマンスでお客さんをひきつける

ういうときに無謀に発した言葉が意外に成功を呼ぶんです。」

言葉の魔力ですね。

「落球して、みんなの冷たい視線を浴びて、さみしく帰ってくるあの目を見ているとき、そのままバッテリーボックス入っても打てないよね。だから、言葉を変えることで野球が変わるかなと思って、無謀に走っているわけです。」

行動するうちの5割は失敗。でも 体で失敗を感じると問題点が分かる

新しいことを始めたり、改革しようとするとき、抵抗する力にぶつかることも多いのでは？

「新しいことをやると必ずぶつかるんです。だからこそやってしまう。やってしまうと、やっちゃったからしょうがないと、修正してくれる人が出てくるものです。

事前に話し合うと前に進まないでしょう。会議をするとたくさんの意見が出てきます。良いのが半分、悪いのが半分。それをチョイスするとき、100%悪



「欠点が個性だと気づいたとき、失敗しそうなやつが成功する」と語る

いほうを取り除くのね。それで無難というところにたどりつく。でも無難に成功はないんです。

だから、まず行動する。行動するうちの5割は失敗です。でも体で失敗を感じると何を間違えたかはつきり分かります。その間違いをバシなうちに修正するんです。いちばん先を走っているから修正しやすいの。この間違いを修正するなかに成功の芽があるんです。

失敗のなかから成功を収めていくと、失敗がだんだん怖くなくなります。」

球団ができてすぐ試合が始まりました、早かったですね。

「球団をつくったときも、給料をどうするのなんて話もしない。お金はどうやって集めるのかなんて、会議をしてもしょうがないでしょう。お客さんに来てもらって、入場料をいただければ済むんですから。だから、選手を集める前にまず試合の予定を組んでしまいました。そうしたら、アマチュアでは70

年間入場料はとったことがないと。でも、お客さんに応援してもらうのはいいと言うから、それなら入場料じゃなくて応援費にしますって。どんどんやってしまう。

失敗しないといいものは出てこないし、失敗するか成功するかは運ですから。才能を疑っているわけではないから、どんどん前には行けますね。」

最高の笑いでないと 野球場ではウケません

野球という舞台で、演出家として考えていることは何ですか？

「野球は70年、スポーツの王様だったという歴史を感じますね。ランナーが一人出ると、マイクはいらないと言う。それだけで人をひきつけますからね。ですから、野球を汚すようなギャグはお客さんに嫌われます。今までの笑いのなかでいちばん難しい。テレビよりも難しいですね。笑いにも1~10点まで

写真提供：茨城ゴールデンゴールズ



初めての“芸能界出身”監督として試合に臨む

段階があって、8～10点の笑いじゃないと、笑ってくれません。笑いとしては最高の笑いが求められているんです。だからやり甲斐はあります。」

たしかに難しそうですね。

「あの大きさと空、空気が自然ですから、笑いも段取りも自然でないとダメなんです。作りものはダメ。今まで僕がやってきたなかの粋な笑い以外は使えません。

日向でキャンプをやったとき、1万8,000人のお客さんが出入りしているなかで、どうやって笑いをつくるか。これはエライことを始めてしまったのですが、長い経験から一つ分かったのは、台本があったら失敗するという事です。だから人を配置しただけ。あなたはそこにいてくださいと。配置された人も明日何をやるのか分からない。

球場のアナウンサーは、ウグイス嬢といって普通は女性がきれいな声でやるでしょう。それを男性に頼みました。アナウンサーという職業の人ではなく、球団の事務をやっている人をお願いして。

やったことがないからダメですよ、と言うのですが、それがいいの、だからそこにいと。」

お客様の気持ちに合ったことをやるのがサービスなんです

当日、どうなったのですか？

「向こうのチームは女性のきれいな声でアナウンスしているでしょう。うちは男性で、しゃべり方も専門家ではありません。そうすると、マイクの向こうで困っているさまが見えるんです。つまり、見せるのではなく想像させる。

センターの岩田がライトに回りまして、7番に奥田が入りまして……と細かくアナウンスするでしょう。でもね、よく見ていると、お客さん全然聞いてないの。だから、『いろいろ変わりました、ボードをご覧ください』とアナウンスしたわけ。お客さん喜んで、どこがどう変わったんだと、関心を持つわけですよ。ボードを見て、あいつかなどやっている。説明しているときは誰も聞かないのに、横着しているいろいろ変わりましたと言ったらみんな見るわけです。

プロ野球でも間違えているのは、お客さんに喜ばれないファンサービスをし過ぎているということ。親切が逆効果になっている。お客様の気持ちに合ったことをやるのがサービスなんだと思いますよ。」

アナウンスもいかに効果的にするか、ということですね。

「つまらないことにマイクを使うと、マイクの価値が下がってしまいます。説明のためにマイクがあるのではなくて、お客さんが喜ぶために使わないといけないの。

それから、審判が4人いるからおもしろくない。4人もいて間違えるから不愉快になるんです。

うちは、オープン戦や紅白戦では審判1人です。主審山田、1塁山田、2塁山田、3塁山田、以上の審判でお届けしますって。ドッカン、ドッカン、お客さん大喜びです。サービスしないほうがお客さん

が喜ぶというのは何なの。

ストライクと言って、2 塁に盗塁があったら、2 塁に走って行ってセーフとやるわけです。間違えても仕方がない状況でやっているから、間違えても納得がいくじゃない。お前見てたの？ ちょっと遠かったからって、話し合いができる。話し合えたほうがお客さん喜ぶもの。」

グラウンド整備のおじちゃんだって スターになれるしお客も呼べる

選手よりも審判のほうが大変ですね。

「帽子とって挨拶すると、審判に拍手がきますよ。大変なことをやっているからお客さんが感動するんです。僕は審判も見せる。お客さんの前にいる以上、見せる審判をやらないといけないの。」

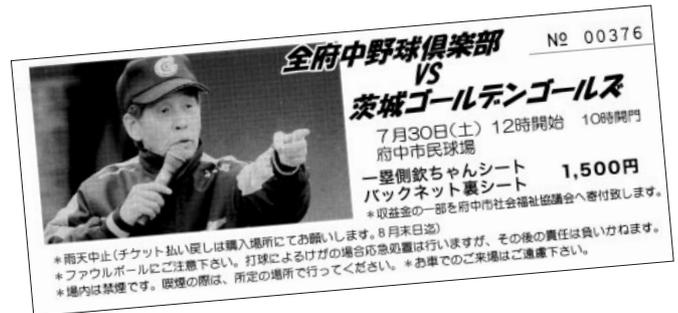
審判もスターになる？

「僕が思ったのは、子どもの頃、何で野球を見ていたかという、どうもスターで見ていたみたい。長嶋さんとか王さんとか、スター選手を見ていた。だとすれば、スターになりそうなところは他にたくさんあるんです。審判もスターになるし、僕が好きなのは、マウンドをトンボできれいに整備しているおじちゃん。僕にとってはスターだね。

試合が終わったあと、一人であの広いところで地ならしをしている。マイクを向けるといいですよ。哀愁があって。

グラウンド整備をお客さんに見せるのは失礼です。でも、そこにマイクを向けることによって、出演者になる。その人の価値が上がるの。

整備しているときに、会話をしたことがあるんです。おじちゃんがいるから選手ができるんだよねって。こんな 2 万人近くのお客さんが来たんだから、それなりの衣裳を着てこようと思わなかった？ って。そうしたら、今までいいなかったから、気を使わなく



茨城ゴールデンゴールズの観戦チケット。
今後の試合日程などはwww.goldengolds.comに詳しい。

ても済んだんだけど、こんなに来るんだったらいいの着てくればよかったな、明日いいの着て来るよって。そういう話をしながら、おじちゃんトンボで整備しているの。いいですよ、その会話。

それで、おじちゃんが次の日に衣裳を変えてくるのを見たくて来たお客さんが何人かいるんです。案の定、次の日に衣裳を変えてきた。昨日来たお客さんの半分くらいは、わーと笑いました。あるお客さんにとっては、そのおじちゃんがスターなんです。」

投資で一番いいのは人間 ダメなやつほどでかいあたりをする

欽どこや欽ドンなどの番組から、小堺一機さんや関根勤さんなど有名タレントが生まれ、巣立っていきました。欽ちゃんファミリーと言われていた人たちの活躍が目をはびきます。

「小堺と関根はたまたま事務所において、5 年経っても辞めなかったから、ホンモノだと思って、テレビに出してあげただけです。

小堺は、一緒にテレビに出たとき、やかん持ってガタガタふるえて、その音が出てしまった。そのとき、僕は記憶にないんだけど、『オレふるえるヤツ好きだよ』と言ったというんですね。大將がそう言ってくれて救われたって。僕としてはこの子を救ってあげようと思って言ったのではなくて、僕自身も初めてテレビに出たとき、あがって19回NG出して



「がっついたらダメ」が持論

失敗したことがあるから、自分と同じだと思って、お前好きだよって言ったんですよ。

でもね、この失敗は成功すると思いましたよ。このやろう、失敗して有名人だなど。だってひとかどの人物ほど失敗の話は多いでしょう。」

踊る大捜査線など映画の脚本や監督としても活躍している君塚良一さんなど、多くの作家も育ててきました。

「映画ではチャップリンにかなわない。ならばテレビだと思って、テレビ局でアルバイトしている大学生に声を掛けたんです。作家にならないかって。それで石の上にも3年じゃなく5年。5年間、メシ食わせただけで給料も仕事もないのによく辛抱したから、テレビ局に送り出したんです。大事に育てて下さい、5年ものですから、運だけは固まり持てますからって(笑)

僕は書き方なんて何も教えません。できるようにして出したら、仕事も広がらないんです。できないと思うから頭下げて、周囲からもかわいがられて、伸びていくんです。」

現在もバジャマ党、サラダ党として、萩本企画所属の作家として活躍されていますね。

投資で一番いいのは人間です。銀行の人から、株や土地でお金を増やす方法を聞いたとき、それはやらないって言ったの。土地買ったら10倍になると言うけれど、20倍があるはずだってね。だって、この大学生たちは30倍くらいやってくれましたよ。いまだに辞めないで、我が社をみんなで維持しているからね。

つらいなーと言えば、みんな飛んで来るし。ありがたいですよ。お前たち、みんな忙しいから来なくていいよと言っても来る。」

カスだと自覚した人が集まると爆発的な力を発揮します

野球の話に戻りますが、これから、どのようにチームづくりをしていこうと考えていますか？

「公式戦が終わってレギュラーがはっきりしてきました。レギュラーになれなかった選手で二軍をつくって、僕がいよいよ特訓します。今までは、采配にも選手に対しても口を出していません。野球のプロがいるのに、口をはさんだら失礼ですから。

でも二軍は、僕が教えて失敗してもチャラですから。苔寺で有名な西芳寺の住職さんが言ってました。気候的に湿気の多い寺で、花も咲かない。でもその短所が生きて、みごとな苔寺になったと。おお見栄晴寺、斎藤清六寺だと思いました。

だから、レギュラーから落ちたしょんぼり組を集めて、新しい野球始めます。ゴールデンゴールズカスチームです。自分自身がカスだと自覚していないとダメね。カスだと自覚した人が集まると爆発的な力を発揮するんです。

こういうのは、飛び抜けるか最悪かどっちかしかありません。つぶれるかスターになるか。おもしろい野球やりますよ。」